

令和2年度第3回喜多方市総合教育会議議事録

1 日 時 令和3年3月12日（金）午後3時40分～午後5時9分

2 場 所 喜多方市役所 本庁舎2階 大会議室

3 出席者

（構成員）

市 長 遠 藤 忠 一

教育委員会教育長 大 場 健 哉

教育委員会委員 高 橋 明 子

教育委員会委員 荒 明 美 恵子

教育委員会委員 大 森 佳 彦

教育委員会委員 遠 藤 一 幸

（事務局）

企画政策部長 齋 藤 進

企画政策部参事兼企画調整課長 小 野 幸 一

企画調整課長補佐 伊 藤 博 之

企画政策班副主任主査 鈴 木 和 人

企画政策班副主査 岩 淵 太 一

教 育 部 長 江 花 一 治

教育総務課長 大 瀧 浩 信

教育総務課長補佐 安 藤 茂

学校教育課長 武 藤 幸 意

学校教育課主幹 小 荒 井 浩

学校教育課主幹兼管理主事 穴 澤 正 志

学校教育課長補佐 油 井 弘 美

学校教育課指導主事 齋 藤 勝 芳

4 協議事項

（1）喜多方市立適正規模適正配置実施計画（案）たたき台の検討状況について

【別紙1】【別紙1-1】【別紙1-2】

（2）上三宮小学校に関する対応経過及び今後の進め方について

【別紙2】【別紙1-1】

5 その他

なし

## 6 協議内容

- (1) 喜多方市立適正規模適正配置実施計画（案）たたき台の検討状況について  
小荒井学校教育課主幹が別紙1、別紙1-1、別紙1-2を基に説明。

### ○遠藤市長

あるべき学びの姿を模索しながら検討してきた。クラス等絞り込みし、新たな意見が出て、新しいシミュレーションを示していただいたが、最終的にいつごろをめどに、どのような形で整理されるのか、スケジュールを示すことはできるか。

### ○小荒井学校教育課主幹

資料1（たたき台）の6ページ、「6 検討の進め方（検討の手順）」の手順に沿って進めさせていただく。なお、手順5の「各地域へ説明するための実施計画（素案）」を基に地域別説明会を実施（手順6）し、地域別説明会で出された意見を実施計画（案）に反映させ、各種会議で確認・決定していく。今後のスケジュールについては、地域別説明会は令和3年10月からを予定しているが、具体的なスケジュールは未定である。

### ○武藤学校教育課長

補足説明であるが、別冊「地域設定（学区）と学校規模のシミュレーション」をベースに、別紙1をまとめた。あくまで提案なので、この中から選んでいただくというわけではない。今後、地域別説明会や審議会、各種会議を経て修正されていく。また、資料1の1ページ、「1 地域設定（学区）検討の視点」の考え方が変わると、シミュレーションも変わってくる。さまざまな意見をいただきながら検討していきたい。最終的な形はまだ時間を要する。

### ○遠藤市長

コロナ禍の中、時間がかかると思うが、統合ありきではないということよく検討して欲しい。

### ○高橋委員

中学校区や通学距離をベースに検討されているため、旧町村枠を越えた統合の検討はしないように感じてしまうが、熱塩加納町、山都町、高郷町についても、望ましい学級数や学級人数が実現できるシミュレーション（案）を示して欲しい。

### ○小荒井学校教育課主幹

別紙1の中でも示したとおり、地域のコミュニティ重視で旧市町村を越えた合併はしないという考えで作った。また、行政区と学区の考え方をもう一度整

理しつつ、「提案」ということで進めてまいりたい。

○武藤学校教育課長

シミュレーション(案)は、資料1の1ページをベースにしている。なお、旧町村枠を越えた統合など、別な考え方に基づいた案が必要となれば、準備する必要があると考える。

○高橋委員

旧町村の枠を越えた統合は、通学等の面で負担はあると思うが、望ましい学級数や学級人数が実現できるシミュレーションを地域の住民に知っていただくことも大事であるとする。

○遠藤市長

地域への説明会の中で少人数学校の議論になったら、再編が難しくなるのではと危惧している。

○武藤学校教育課長

そういった御意見があがることは想定する必要があると考えている。ハード的な面で小中一貫校や少人数学級などの検討は重要だと思うが、児童生徒にとって良いことなのか、地域にとってのメリットやデメリットなど示しながら、説明していきたい。

○高橋委員

別紙1の11ページなどに記載される、「義務教育9カ年間」とは、小中一貫教育のことであるか。

○小荒井学校教育課主幹

小中一貫校や義務教育学校などの学校のスタイルを意味する。

(2) 上三宮小学校に関する対応経過及び今後の進め方について

小荒井学校教育課主幹が別紙2を基に説明。

○武藤学校教育課長

別紙2の2ページ、イについて、「実施計画と並行して検討していく。」を、「実施計画のとおり検討していく。」とする。また、3パターンあるが、小規模特認校が必ずしも良いと思っているわけではない。地域や教育委員の皆様からいろいろな意見をいただきながら進めていきたい。

○大森委員

令和2年11月下旬に出された意見のうち、保護者は統合に賛成とのことであるが、具体的にどこの小学校と統合することを賛成しているのか。

○小荒井学校教育課主幹

具体的な小学校名は出ていなかったようである。

○遠藤委員

小規模特認校になることによるメリットの説明を保護者にしたのか。

○武藤学校教育課長

教育委員会からは具体的な内容の説明はしていない。

地域、学校、教育委員会が三位一体で今後検討していく必要があると考える。

○高橋委員

令和3年度は上三宮小学校もコミュニティスクールを取組んでいくのか。

○武藤学校教育課長

取組んでいく。また、取組むための委員を選任中である。

○大場教育長

上三宮小学校の今後の方向性については、地域住民が主体的に関わっていただけのような働きかけを、教育委員会としては実施していきたいと考えている。存続や統合、小規模特認校など全て地域住民の協力が必要不可欠である。そのためにも、住民が小学校について話し合える場を設けていきたいと考えている。コミュニティスクールの取組は、地域住民が学校のことについて考える良い機会であると思うので、学校運営協議会の場でも話して欲しいと考えている。また、そういった話し合いの場が、その他保護者の方々が集まる機会において広がっていけば良いと思う。

○高橋委員

地域住民が、地域の小学校をどのようにしていきたいかという主体的な取組が重要と考える。

○荒明委員

保護者から出された意見によると、どのような方法があるか分からない、どうして良いのか分からないということが見て取れるので、悩んでいる状況が伺える。市の考えや方針を示してほしい旨の意見もあることから、地域住民が話し合う材料として、選択肢の提示をしていくことも必要と考える。